

JHFREPORT



第8回JHFハンググライダー・パラグライダーフォトコンテスト 応募作品より 撮影：石坂繁人

2024年度JHF事業計画と予算を策定しました

2024年度のJHF事業計画を策定しました。事業方針の最初に挙げたのは、一般社会での利用が広く浸透してきた無人航空機（ドローン）との調整です。

ハンググライダー・パラグライダーと無人航空機との事故を防ぐため、それぞれの特性や飛行状況を把握し、互いに情報交換ができるよう道筋を作ることが急がれます。そのためJHFではフライトエリアの正確な情報を集めており（16ページをご覧ください）、エリア管理をされている皆様、また会員の皆様からの情報提供をお待ちしています。安全に楽しくフライトを続けられるよう、ご協力をお願いします。

事業方針には、SNSを積極的に活用して普及活動に取り組むこと、そして教本作成や安全セミナーなどを通じて事故の防止を図ることも。安全なくして普及は望めません。2024年度も安全第一のフライトをお願いします。

メールアドレス等 お知らせください

JHFでは会員管理等のシステムの改修を予定しています。

フライヤー会員の皆様のメールアドレスなどの情報を一元管理することによって、なるべく電子メールを利用して郵送件数を減らすなど、事務局業務

の効率化、そして経費削減を図りたいと考えています。

つきましては、下のQRコードから氏名・メールアドレス等をご入力くださるようお願いいたします。これらの情報を既にご連絡いただいている方も確認のためにご入力ください。皆様のご理解とご協力をお願いします。

[入力項目]

フライヤー登録番号／氏名／生年月日／メールアドレス（オプションで三つまで入力できます）／携帯電話番号



スポーツくじ



JHFレポートはスポーツ振興くじ助成金を受けて発行しています

JHFフライヤー宣言

1. 自分の意志と責任でフライトします。
2. 自己の健康管理を行い、健全なフライトをします。
3. 社会のルールを守り、第三者に迷惑をかけません。
4. 自然を大切にします。

2024年度JHF事業計画と予算

事業方針

無人航空機（ドローン）は、物資輸送のほか農薬散布、建物や鉄塔の点検、河川や砂防ダムの巡視、空撮、災害被害の状況把握など多方面での利用が始まっています。無人航空機との調整を図り事故を防止するため双方向での情報交換ができるように進めていきます。

スカイスポーツの魅力を広め愛好者を増やしていくために、JHFやフライヤーによるSNSの積極的活用を推進し、一般の人々がハンググライダーやパラグライダーを体験したり、その競技を観戦する機会を増やすなどの普及活動に取り組んでいきます。

一方、安全は普及の前提です。今後も教本作成や安全セミナーなどを通じて、事故の防止を図っていきます。また、フライヤー自身のケガを保障するJHF総合保障制度の加入者の拡大を図ります。

事業の具体的内容

HG：ハンググライディング

PG：パラグライディング

MPG：モーターパラグライディング

XC：クロスカントリー

【理事会・事務局の事業】

- 1 全国のフライヤーの実態把握と安全対策
- 2 愛好者増加の推進
- 3 ハング・パラグライディングのイメージ向上・宣伝告知
- 4 委員会の主体的活動のバックアップ
- 5 ボランティア制度の活用促進
- 6 フライト中の情報交換を可能にする無線機の普及
- 7 フライヤーのための損害保険の告知と普及
- 8 スクールのための施設賠償・損害保険の告知と普及
- 9 第三者賠償責任保険の付保継続
- 10 寄付・助成金獲得への取り組み
- 11 オンライン手続き、キャッシュレス決済の導入
- 12 その他定款の定める管轄事項

【常設委員会・事務局（広報出版）の事業】

●安全性委員会

- 1 事故情報の収集と管理（注意喚起など実施）
- 2 事故調査活動
- 3 セーフティーノーツの管理
- 4 委員会ホームページの管理
- 5 JHFレポートへの安全に関する記事の掲載
- 6 チェック5タグの普及推進（安全注意喚起）
- 7 機体登録制度の推進（EN情報との連携及びホームページ掲載）
- 8 PGパイロット安全セミナーのテキスト改訂
- 9 MPGパイロット安全セミナーのテキスト改訂を検討
- 10 安全セミナー開催の検討

●教員・スクール事業委員会

- 1 PG・HG・MPGパイロット安全セミナーの開催
- 2 教員実技検定会の開催
- 3 教員学科集合検定会の開催
- 4 上級タンデム技能証検定会の開催
- 5 教員助教員更新講習会の開催
- 6 レスキューパラシュートリパック認定証更新講習会の開催
- 7 レスキューパラシュートリパック認定証検定会の開催
- 8 スクール登録
- 9 タンデム教本の作成（上級タンデム教本と分冊にする）
- 10 教員養成課程の制定
- 11 上級タンデム練習会の開催
- 12 教員ワークショップの開催（教員志望者への学習機会の提供及び、現任教員・助教員の交流と学び直しの機会提供）
- 13 教員学科検定不合格者の補習と再検定

●HG競技委員会

- 1 ルールブックの改定
- 2 HGシリーズの運営
- 3 フライトコンテストの運営
- 4 委員会ホームページの運営
- 5 クラスI日本選手権の開催（開催時期未定 和歌山・紀の川）
- 6 クラスV日本選手権の開催（開催

時期・エリア未定）

- 7 各種大会の公認および後援申請に対する審議および承認
- 8 SNSを活用したタイムリーな情報発信
- 9 日本ハンググライディング競技者育成プログラムの企画・運営
 - 1) ハングシリーズ大会の開催（8月：山形県南陽エリア）
 - 2) スポーツクラス大会の開催（9月：茨城県足尾山エリア）
 - 3) 競技練習会の開催（5月：長野県信濃平エリア、5月：富山県砺波エリア）
 - 4) ウェブセミナーの開催（6月）
- 10 新スコアリングソフトウェア(Air Score)の導入検討

●PG競技委員会

- 1 ルールブックの改定
- 2 ウェブ事務局/ホームページ管理
- 3 Jリーグ、J2リーグ、AJリーグ管理
- 4 XCリーグ管理（外部サービス：XCcontest利用料含む）
- 5 J2リーグおよびアキュラシーリーグの活性化・支援
- 6 XC日本選手権の開催（2024年9月20日～23日 茨城県・足尾山エリア）
- 7 アキュラシー日本選手権の開催（開催時期未定 山形県・十分一山エリア）
- 8 第2回パラグライディングXCアジア・オセアニア選手権（大韓民国）2024年6月5日～12日に選手団派遣（6名：同一性は5名まで）
- 9 第1回パラグライディングXCジュニア世界選手権（スロベニア）2024年8月18日～31日に選手団派遣（現在2名）

●制度委員会

- 1 JHFにかかわる制度の定款、規約、規程、規則などの文書管理
 - 1) 理事会諮問事項への答申等技能証規程改正案作成と理事会上程
 - 2) JHFホームページ上の総覧整備（規程改正およびFAI部分）
<https://jhf.hangpara.or.jp/office/office.html>
- 2 各種制度導入および改正について

●補助動力委員会

- 1 安全性セミナー各地開催

●ハング・パラ振興委員会

- 1 今飛んでいる人が飛び続けられる環境作りの検討
 - 1) フライヤーズボイスの定期更新体制の運用と継続的見直し
- 事務局との連携、JHFレポート発行に同期した更新体制とレポートへの要約記事掲載
- 2) 飛ぶのを止めてしまった方の状況分析
- 3) 学生が卒業に伴いやめてしまう問題の分析と対応策検討（学連と連携）
- 4) 家族向けパンフレット「ご家族の皆様へ（仮称）」更新
- 5) JHFレポートの活用検討（フライヤーからの投稿記事など）
- 6) SNS（Facebook等）を活用した情報発信の検討
- 7) Twitter、Instagramを利用した「笑顔の写真」「楽しい写真」の募集
- 8) Sports NaviとPR TIMESへの

積極的投稿

- ハングシリーズ、フライトコンテスト、J、J2、アキュラシーリーグ、XCリーグ
- 9) 一般の方がハング・パラ大会を観戦できる仕組みの検討
 - 大会会場での観戦、ウェブ観戦、ライブトラック・ライブカメラ活用、競技を説明するパンフ等の作成→2024年検討・試行
- 10) JHFレポート企画立案への協力
- 2 体験会等イベントへの協力
 - 「新しい生活様式」におけるイベントの模索
- 3 外部組織との連携
 - VR体験に関する大学研究室との協力体制維持
- 4 後援申請に対する承認
 - 大会以外の体験会やイベントの後援申請に対する確認および承認

●役員選任実行委員会

- 1 2025年通常総会における役員選任の準備
- 2 役員選任規約の改定検討

●事務局（広報出版活動）

- 1 JHFウェブサイトの運営（スケー

ル紹介サイトを含む)

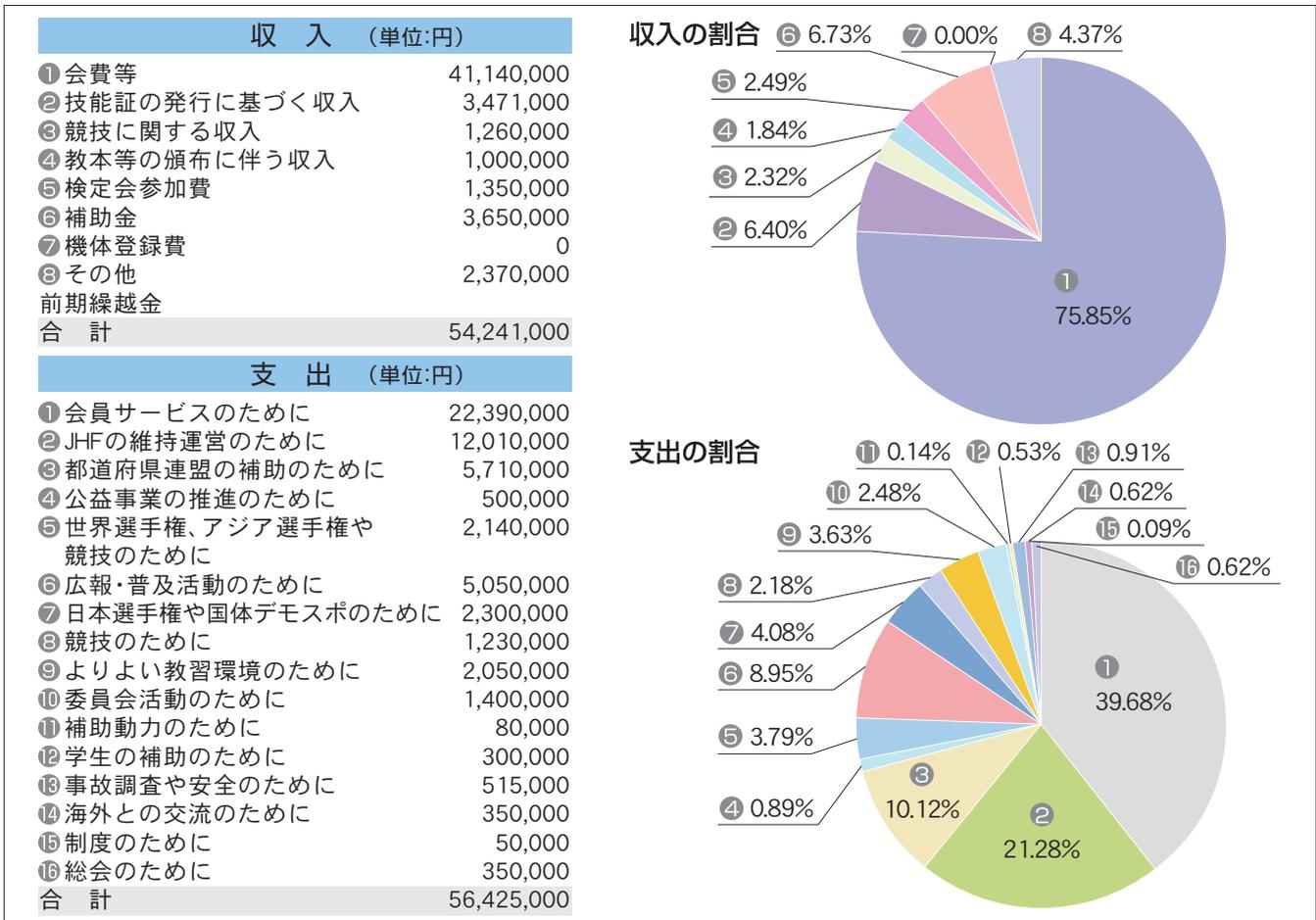
- 2 JHFレポートの発行
- 3 関連媒体への情報提供（ハング・パラグライディング関連雑誌に情報を提供）
- 4 一般媒体などへの情報提供（ハング・パラグライディングの紹介、イベントやエリアの紹介など）
- 5 スクールなどへの情報提供
- 6 日本のHG・PGの歴史編纂事業
- 7 スクール・エリア登録の推進
- 8 ITシステムの更新および効率化

【その他の事業】

- 上記のほか、この法人の目的達成に必要な下記の事業を行う
- 1 技術に関する事業
 - 2 教育に関する事業
 - 3 安全に関する事業
 - 4 競技に関する事業
 - 5 その他普及啓蒙に関する事業

予算

JHFの活動を支えているのは、主に会員の皆さんの会費や各種申請料などです。これらの「収入」がどのような配分で今年度の事業に活かされるのか、下のグラフでご覧ください。



JHFの動き

常設委員会と役員選任実行委員会の委員を選任しました

前号でお知らせしたとおり、JHF常設委員会等の委員の任期が2024年3月31日満了のため次期委員を募集しました。全国から立候補をいただき、3月22日の理事会において次の方々を選任しました（敬称略、あいうえお順）。

2024年度・2025年度の2年間、JHFの様々な活動を担っていく委員の皆さん、よろしくお祈りします。

●ハンググライディング競技委員会

定員 5名

櫻井大朗、鈴木皓子、中西亮太、箕谷将明、牟田園明

●パラグライディング競技委員会

定員 5名（アキュラシー競技委員として2名追加）

荒井大悟、岡 芳樹、古賀光晴、鈴木洋史、長島信一、村上修一、山下敦子

●教員・スクール事業委員会

定員 6名（1名追加）

奥野圭一、北野正浩、木村陽二、西泉隆広、福田一郎、福田武史、三品弘樹

●制度委員会

定員 5名

泉 秀樹、井上 潔、千葉櫻えりか、中瀬 誠、横山 豪

●補助動力委員会

定員 5名

植月太一、小川勝良、海田和廣、木村陽二、田代茂樹

●安全性委員会

定員 6名

伊尾木浩二、金井 誠、佐藤克久、西本一弘、日黒 敏、山本 貢

●ハングパラ振興委員会

定員 5名（1名追加）

井上 潔、奥山 俊、川地正孝、鈴木由路、富樫 司、堀江 譲

●役員選任実行委員会

定員 5名

伊藤 了、鈴木由路、服部良亮

教員検定・集合学科検定会を実施しました

教員学科検定会は、コロナ禍で分散開催をしていましたが、4年ぶりに東京に集合しての検定を2月26日（月）に開催。事前にオンライン研修を3回

実施し、教員に必要な知識や技術に関する予備講習等を行いました。8名が受検し、実技検定合格済みの3名は教員として活動を開始、2名は実技検定合格後に活動を開始します。



4年ぶりに東京に集合、対面での検定会が実現した。

6月18日に東京都内で2024年度定時総会を開催します

6月18日（火）13時から、東京都中央区、TKP銀座ビジネスセンターのカンファレンスルーム6Aにおいて2024年度JHF定時総会を開催。フライヤー会員を代表して全国の正会員（都道府県連盟）が参加します。

報告事項として、2023年度の事業報告ならびに決算報告・監査報告、2024年度の事業計画と収支予算を予定。決議事項は、貸借対照表及び損益計算表（正味財産増減計算書）の承認等を予定しています。

上級タンデム技能証検定会を開催します

2019年4月より上級タンデム技能証を新設しました。2023年度は初回取得者の継続検定も実施。5回開催し受検者62名、合格21名（内新規4名）でした。

2024年度は、朝霧で11月・1月に山形で9月か10月に、獅子吼で6月1～2日を予定しています。受検希望者が10名を超える見込みがあれば委員会で検討し開催は可能です。事務局までご連絡ください。

また、上級タンデム練習会も開催する予定です。スケジュールが決まり次第JHFウェブサイトでご案内します。

PGアジア・オセアニア選手権日本代表チームを選考しました

6月5日から16日まで、大韓民国のMungyeongで開催される「第2回パラグライディングアジア・オセアニア選手権」に向けて、日本代表チームの

メンバーを選考しました。

●日本代表選手（6名）

小林大晃、多賀純一、平木啓子、山下敦子、隅秀敏、吉川朋子
チームリーダー：長島信一

また下記の方々が個人参加予定です。花田瞬、中目みどり、若山朋晴、長島信一（チームリーダー兼選手）、阿知波広和、竹尾雅行、早坂真有美

なお、参加選手の減少、チームメンバーと個人参加の選手の入れ替えが生ずる可能性があります。確定メンバーはJHFウェブサイトをご覧ください。

日本航空協会のイベントに参加 VRでパラグライダー体験を

一般財団法人日本航空協会「航空スポーツを広める会議」のイベントが3月30日（土）、東京都港区三田図書館内のホールで開催されました。

JHFはパラグライダーVR体験で参加し、たくさんの親子にVRのパラグライダーフライトを楽しんでもらいました。



パネル展示でスカイスポーツの楽しさをアピール。



多くの人がVRのパラグライダーフライトを体験。

第11回JHFフォトコンテスト開催 お気軽にご応募ください

2024年度もJHFハンググライダー・パラグライダーフォトコンテストを開催します。前は残念ながら最優秀賞、優秀賞ともに該当作品なし。今年こそぜひ！ データでも応募可能。締切日は2024年9月10日（火）です。

県連だより

**■北山誠氏に青森県から奨励賞
青森県ハング・パラグライディング連盟**
当連盟所属の北山誠氏（弘前市在住72歳）が、長年のスカイスポーツ普及活動が認められ、2024年1月20日、令和5年度「青森県スポーツ・レクリエーション奨励賞」を授賞しました。

北山氏は、青森県内にハンググライダーが入り始めた1979年頃から44年間の長い期間に渡り活動を続け、10年前からは、当連盟の役員も務めて活躍、特にエリア内でのクラブ間やフライヤー間の様々な問題の調整等に尽力された事が認められての授賞となりました。

現在は、パラグライダーでの現役フライヤーとして空の魅力を満喫しておられます。

【授賞に当たり、本人からのコメント】
「フライヤー間のわだかまりが無く楽しく飛び交い、仲間を増やし、市民権

を獲得する為に、怪我や事故の撲滅に力を注いでいきたい！」
当連盟からの授賞は、10年前の杉山氏に続いて二人目となりました。
(青森県連 古川正司)



受賞された北山誠氏。これからもご活躍を！

■定期総会のお知らせ 静岡県フライヤー連盟

静岡県在住のJHFフライヤー会員の皆さんへ

下記のとおり、2024年度静岡県フライヤー連盟定期総会を開催いたします。静岡県在住のフライヤー会員の方

はぜひご出席ください。
○日時：2024年6月20日（木）午後7時～

○場所：富士川ふれあいホール
静岡県富士市岩淵855-39

TEL：0545-81-2333

○予定議案：

2023年度 活動報告／会計報告
JHF総会の報告

2024年度 活動計画／予算案

ご欠席される場合は、下のQRコードを読み取り、必要事項を入力し送信ボタンを押して、委任状をご提出ください（前日までにお問い合わせください）。委任状を提出せずに欠席される場合は静岡県フライヤー連盟総会において構成員としての権限を辞退したものとさせていただきます。



学連ニュース

今回は2月28日から3日間にわたって開催されたハンググライダー学生大会「2023年度全日本学生選手権 in 龍門」の報告をします。

大会初日はとても良いコンディションで、全クラスの競技が成立しました。

2ndクラスは、ランディングの精度とターゲットまでの距離を競いました。北風が強めに吹く中でしたが、皆無事にフライト出来ました。難しい風の中、いつもと違う場所にランディングするという経験は、とても貴重なものになったのではないのでしょうか。上手く降ろせた人も、思うようにいかなかった人も、お互いに助言しあう中で自身の成長に繋がったように思います。

1stクラスはサーキットレースで、3つのパイロンをいくつ回れたかと、デュレーションで競いました。北風が入りリッジで落ちないという条件も味方し、なんと25個のパイロンを取った人が2人も！ 歴代稀にみる白熱したレースを展開してくれました。パイロン数は同じだったため、わずかに長く飛んでいた方の勝利で決着がつかしました。

expertクラスは、約20kmのタスクを多くの方がゴールすることが出来ました。最初のスタートの時間帯は渋い条

件の中でのレースとなりました。タイミング良くスタートを切れた2人がなんとか粘りながらゴール。その2人がデイリー1、2位かと思いきや、なんと遅い時間にスタートを切っていた1人が最速タイムでゴールし、2位に食い込むという波乱の展開に！ 最後まで結果が分からないワクワクしたレースとなりました。ポイント配分に対する理解が深まり充実した、楽しいフライトになったように思います。

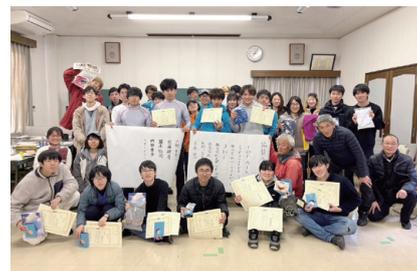
大会2日目はあいにくの悪天候により、大会はキャンセルとなってしまいましたが、選手同士の交流会が開催されました。選手はランダムにチーム分けされ、それぞれの飛んでいるエリアについてのタイズで競うなどの企画が行われ、とても楽しいものとなりました。選手同士で濃い時間を過ごす中で、他エリアの事情やフライトについてたくさん知ることが出来ました。

最終日は、クラス毎にインストラクターがつき、自分のレベルにあった座学が行われ、多くの知識を得ることが出来ました。ご指導ありがとうございました。また、企画運営に携わったスタッフの皆様ありがとうございました。来年もよろしくお祈りします。

最後に、3月中旬に開催する予定であったパラグライダー学生選手権ですが、エントリーが規定より少なく開催を見送りました。大会に参加する人が少なくなっている現状や、荒れた春に経験の浅いフライヤーが競技をすることの難しさなどが問題になっています。大会は夏ごろを目安に開催を予定しています。是非皆さんの参加をお待ちしております。今後とも楽しくフライトしていきましょう！



優勝者の本田旭選手とともに健闘を讃えて。



表彰式を終えて参加者みんなで楽しかった！

福岡聖子セミナー報告／ハンググライダー事故考察

JHF安全性委員会

JHF安全性委員会は、ハンググライダー・パラグライダーの事故を防止するための活動をしています。事故調査や事故報告をまとめ注意喚起すること、安全フライトのための情報提供やテキスト作成などなど。今回は多くの参加を得て安全セミナーを開催しました。

福岡聖子さんの安全セミナーを開催しました

福岡聖子さんを講師に招いての安全セミナーを昨年末に企画し、年末年始を挟んだわずか2週間の募集期間にも関わらず、すぐに定員に達し追加枠を設けて静岡県朝霧にて開催しました。参加者は74名（別にスタッフ4名）と



世界で活躍を続ける福岡さんの声に真剣に耳を傾ける。



ハーネスセッティング方法の再確認をする。

盛大なイベントとなり、福岡聖子さんから多くのことが学べたことと思いません。

日本におけるパラグライダー、ハンググライダー共に昨年の重大事故件数は多く、安全セミナーで得た情報をもとに、より安全に正しい判断のもとフライトしていただきたいと思えます。

【今回のセミナーのテーマ】

- 福岡聖子の過去の事故体験
- コーチングとの出会い
- なぜ事故が起きるのか？
- ハインリッヒの法則
- 自己分析をして不安要素を取り除く
- マインドマップルーティーン
- 参加者の事故動画をもとに考えられる要因と対策
- ハーネスセッティング方法の再確認
- JHF安全性委員会でもまとめた事故報告の分析と対策 など

【参加者に対するアンケートの結果】

29名の方からアンケートの回答をい

ただきましたので、統計の一部を報告します。

回答者は男性21名、女性8名。全員から「参加して良かった」という評価を得ました。

経験5年未満7名、5年～10年5名、10年～20年6名、20年以上11名。

参加費2200円（内施設料1200円）は妥当19名、安い9名、高い1名。

セミナー内容は全員が「参考になった」と回答。

JHF安全セミナーの定期的な開催を18名が希望、11名が不定期開催希望。

JHFまたは県連の安全セミナー参加が初めての方は19名、2～9回は7名、10回以上は3名。

以上の他、様々なご意見を多数いただきました。各ご意見について検討して可能な範囲で対応していければと思います。

アンケートにご回答いただいた方々、またセミナーに参加して下さった方々、本当にありがとうございました。



福岡さん（前から2列目中央）を囲む参加者。セミナーの内容は「参考になった」と好評だった。

「もったいない事故」を繰り返さないために

もし、あなたが事故を起こしてしまったら、あやうく大事故になるようなミスをしてしまったら、どうしますか？

自分の失敗を皆に伝えるのは、嬉

しいことではありません。ベテランパイロットであれば尚更、気が進まないことでしょう。しかし、あなたの経験が皆の安全につながるとしたら、どうですか？

JHF安全性委員会では、事故再発防止のために、事故やインシデント情報を収集しています。

当事者、エリア・スクールの管理者など関係者の方は、事故報告をしてください。目撃しただけだから報告までは……という方は、JHFウェブサイト、会員ページトップの画面左上、『事故情報収集ページ』からお知らせください。匿名で結構です、ぜひご協力を！

注意喚起

- Skywalk社レスキューパラシュート
- PHI社R07ライザーのライン破断

JHFウェブサイトの安全性委員会ページにDHVやメーカー等が発表する耐空性改善に関する通報「セーフティノーツ」があります。以下はこの4月2日更新の情報です。詳しくは委員会ページをご覧ください。

【レスキューパラが開かない】

Skywalk社レスキューパラシュートのインナーコンテナの一部の生地がハトメ等に引っ掛かり、パラシュートが開かなくなる事例

※このケースはSkywalk社製に限らず、他メーカーでも同様の問題が発生する可能性があります。リパック認定証保持者は、よく理解したうえでリパックを行うようお願いいたします。

【ラインの破断】

PHIのR07というライザーのBライザーを滑車を使って接続しているラインが破断した事例

※該当するユーザーの方は購入先に確認をお願いいたします。

2023年 ハンググライダー事故に 関する考察

2023年は、ハンググライダーの重大事故が例年より多く起こりました。これは、その重大事故に関しての考察を述べたものです。その考察より有効な事故防止策を提案するものです。以下に、その考察および事故防止策についてお伝えします。

昨年2023年に発生した事故に関し、その発生状況を確認してみると、多くは指導する教員が不在のエリアで発生しているという傾向があります。以前はエリア管理者がいたものの、ハングフライヤー人口の減少に伴い、エリアのみ存続し続け、そこで以前よりフライトしていた者が事故を起こす状態となっています。

このようなエリアでは、適切に指導できる教員（指導者）がいなかったため、どうしても、フライヤーに対し安全教育が出来ない状況となっていると考えられます。

昨年に発生した多くのハンググライダー事故は、この安全教育が行き届いていないことにより発生したと考えられます。その理由からフライヤーの判

断力の欠如も多くみられます。本来ならば、重大事故に至るまでの過程の中で、どこかでその事故を回避できる機会があったにもかかわらず、事故当事者の判断力の甘さから、最終的に重大事故に至っています。

スカイスポーツでは、時には予期せぬ状況（例えば風向きの変化や乱流等）が発生する可能性もあるため、常に一番安全な方法を選択するのが鉄則です。しかし、昨年に発生した重大事故の報告内容から、事故当事者が余裕のない判断をしたことが原因となった事例が目立ちます。今後このようなハン

グライダー事故を防ぐには以下2点の対策を最低限、徹底する必要があると思います。

■管理者のいないエリアにも、安全教育が行き届く体制を整えること。

■個々のフライヤーの安全意識を向上させること。

以上が重要と言えます。そのため、現段階ですぐに対応できる方法として、JHFレポートを有効に活用し、安全に関する記事を掲載し、フライヤー皆の意識向上を目指す方法などが挙げられます。

最近の事故報告 2023-2024年

2023年の事故報告件数は47件。死亡事故は7件（内パラ5件、ハング2件、MPG1件）、今年も既に死亡事故が発生しています。

昨年の報告件数47件の内、30件は「防げる事故」に当てはまるでしょう。

機材確認、観天望気による気象変化の把握、ご自身の技量をしっかりと考慮しフライトするかを判断する。防げるミス及び判断ミスを減らす／無くすことにより、事故が減少し、重大事故を無くしていけるように、フライヤーの方々の協力、クロスチェックを徹底していただけるようにお願いします。

また、ベテランレベルの事故が増え

ており、接触事故、スクール生の事故も増えています。経験値の高い方でもミスを起こしますので、より慎重に集中力を高めてフライトする。または扱いやすい翼にクラスダウンし楽しいフライトに繋がっていただければ、ヒヤリハットも減ることかと思えます。

皆様の安全意識レベルを一層高めて事故を無くすようにしていきましょう。

2023-2024年の事故報告

	日付	機材	内容	EN	年齢	経験	性別	練習生	怪我の状況
47	12月3日	PG	アキュラシー競技において2mくらいから失速	A	76	30～	男		頸椎損傷重症
1	1月13日	HG+PG	HG：サーマルソアリング中に下から上がってきたPGに衝突		28	8	女	C	無傷
		HG+PG	PG：サーマル上昇中、8周目に衝突	A	52	1	男	B	無傷
2	1月22日	PG	7-8m/sの風で離陸。ライン絡み取った直後潰れ旋回T/O着	D	45	30～	男		腰椎圧迫
3	1月24日	MPG	片翼ライン絡みTOし、高度30mくらいから旋回して川の中		74	13～	男	未	死亡
4	2月17日	PG	離陸後LD届かずツリーラン、対地30m以上、自力脱出落下	B	68	23	女		入院中詳細不明
5	2月24日	HG	講習斜面下段から離陸後、左に取りられ直せず段差に激突		40		男	練習生	左上腕骨折

2024年CIVL総会レポート

2月末、大韓民国において国際航空連盟（FAI）の国際ハンググライディング・パラグライディング委員会（CIVL）の総会が開催されました。日本を代表するデレゲート（委員）として岡芳樹さんが現地出席、牟田園明さんがオルタネート（副委員）としてリモート参加しました。以下はお二人からの報告です。

会期：2024年2月26日～29日

場所：SNUH（Seoul National University Hospital）大韓民国 Mungyeong

開催スケジュール：

2月26日 9:00～18:15

HGXC/PGXC合同委員会、HGXC委員会、ソフト作業部会

27日 9:00～18:15

PGA委員会、PGXC委員会、PGハイク&フライ作業部会

28日 9:00～18:15

総会、各選手権立候補地のプレゼンテーション

29日 9:00～12:00

総会、各選手権開催地選挙

参加国：

[現地出席：16か国] イギリス、イタリア、インドネシア、カザフスタン、北マケドニア、スロベニア、セルビア、チェコ、フィンランド、フランス、ブラジル、ポルトガル、ルーマニア、米国、韓国、日本

[委任状：14か国] オーストリア→ポルトガル、カナダ→米国、クロアチア→スロベニア、スイス→北マケドニア、スウェーデン→フィンランド、スペイン→フランス、タイ→インドネシア、チリ→ブラジル、ドイツ→チェコ、ブ

ルガリア→韓国、ボスニアヘルツェゴビナ→イタリア、ポーランド→ルーマニア、モンテネグロ→セルビア、リトアニア→イギリス

[オブザーバー] モンゴル

重要な討議・議決事項の結果

■ 各項の頭の数字はANNEXEの番号

HG=ハンググライディング

PG=パラグライディング

XC=クロスカントリー

A=アキュラシー

S7=FAIスポーティングコードのセクション7

【A：全種目関連】

25C

大会委員長が、判断を誤ってS7に抵触する決定をした場合に、ことが大問題となる前に、スチュワード強権を発動できるように「陪審員長に相談した後、スチュワードは必要に応じて、S7の遵守を確保するため、および／またはイベントの公平性、安全性、完全性を確保するために、大会委員長の決定を無効にすることができる。」との文言をS7共通に明記する提案。この提案は承認された。

31

公認大会での事故報告が極めて少ないことを憂慮して、S7共通の12.6.1に「事故報告の無い大会結果を送信したカテゴリー（以下カテと略）2の主催者は、競技中に事故が発生しなかったことを示す宣言書に署名しなければならない。」を追加する。また、12.8に「大会終了から1週間以内に、安全ディレクター（安全ディレクターがいない

場合は大会委員長）は、civlcomps.orgの専用フォームを通じてすべてのインシデントレポートを提出しなければならない。」を追加する。この提案は承認された。

36A, B, C

環境保護方針に関する提案：FAIの環境行動規範に照らし合わせ、2023年の総会でCIVLもそれに沿った指針を策定することを会長から任されたトーマス・セナックが作成し、自己評価テンプレートも併せて作成された。FAI公認大会の主催者は、出来るだけ指針に沿うように大会を運営することが求められ、テンプレートの得点が最低点以上であれば、主催者は環境保護指針のロゴを使用することが出来る。特にカテ1大会では、立候補に際してはテンプレートの提出が求められるとする提案。この提案は承認された。

38AA

カテ1大会は、現状では個人タイトルに重きを置いているがこれを、チームタイトルに重きを置く提案。この提案は否決された。

38D

産休に伴うWPRSランキングポイントの凍結の提案。凍結期間を1年として承認された。

38G

数年前、カテゴリーとしてジュニアを新設したが、同様にマスター（内容はシニア）を新設しようという提案。この提案は否決された。

38H

マスターカテゴリーを記録にも加える提案。この提案は撤回された。

38M

現在、EMSはカテ2申請しない大会でも使用できる（この場合、実質無料となる）ようになっている。これを廃止して、カテ2申請しない場合でも最低料金を支払うシステムにする提案。この提案は撤回された。

38O

現在のWPRSポイントでは、大会が終了してから日が経つにつれて、ポイントが減額されるようになっている。これを大会終了してから1年間は減額しないようにする提案。作業部会ですらに協議することとして撤回された。



会期後半の総会の様子。会期前半で委員会を開催。

41A

ハンガリーのNAC（航空スポーツ統括機関 National Aerospports Control）から、多数のアクチュアリー大会を主催し、ハンガリーCIVL代表でもあり自身もアクチュアリー選手としても活躍し、パラグライダー界に多大な貢献をしたので、Sandor KaszasをFAIハング・パラグライディングディプロマに推薦。この指名は承認された。

41B

イタリアのNACから、1988年7月24日コモで気象条件が急変して、突風により吹き飛ばされて亡くなった5人のパイロットを、その犠牲によって、事前に気象情報を入手したり無線機を携帯するなどの安全意識の向上をもたらしたことに對して、ベベ・ロベスメダルを贈りたいとの推薦。この指名は承認された。

41C

理事会から、2023年の世界選手権を成功裏に開催した以下の主催者にエアスポーツメダルを贈りたいとの推薦。この指名は承認された。

□第23回HGクラス1 / 第14回女子HGクラス1 / 第9回HGクラス5世界選手権の主催者：Ivan Lukanov

□第12回アクチュアリー世界選手権の主催者：Sotir Lazarkov

[B : HG関連]

38B

S7Aの8.1から8.3にHGの耐空性に関する規則が記述されているが、スブログに関しては、もっと厳しくする方向、一方、サイドワイヤーを含む機装ワイヤーなどは細かく規定しすぎており、ハーネスのスイングラインも材質を含め断面積を規定したりして、HG機材の発展を妨げているので、それを解消しようとする提案。ベースキャンプでさらに協議することとして撤回された。

38Y

現状、HGのクラス5世界選手権は単独で開催するのが困難なため、クラス1世界選手権と抱き合わせで開催されている。しかしながらこのために、クラス1の選手枠が削られている現状を打開するために、クラス5の世界選手権をクラス1の大陸選手権と抱き合わせとする提案。この提案は大陸選手権と抱き合わせとする文言を、クラス

5の世界選手権は偶数年に行うものとするに修正されて承認された。

39K

今後の選手権開催立候補：2026年8月、Mont Lachens, FRANCE、HGクラス1およびクラス5ヨーロッパ選手権は承認された。

[C : HG/PGXC共通関連]

18

IT&ソフト担当者からのレポート。実際に、書面でのレポートは提出されず、口頭での説明がなされた。その要旨は、「新しい集計ソフトのAirScoreはカテ2の大会でテストを重ねており、今年度中の正式リリースを目指している。チュートリアルなどのドキュメント整備やインフラ強化（AWSへの移行）の対応をしているところである。

25D

S7共通の7.3.9、選手への外部からの手助けとして、ナビゲーションやサーマル位置などの情報を選手間で送ることは禁止されているが、違反している事例があるので、厳しく取り締まることとし、情報を送った選手には100%ペナルティ、そのチームの他の選手には50%ペナルティを科すこととする提案。この提案は最終的にS7Aの6.3（ペナルティ）に「クロスカントリー大会では、空中にいる競技者以外のパイロットによるナビゲーションやサーマル位置を知らせる行為は禁止される。」を追加する提案に修正され、承認された。

38I

カテ1大会に参加するに際し、参加資格がないのに例外規定を利用して参加できる道があるが、これを削除する提案。この提案は否決された。

38J

S7Fの6.2.2.1は、ゴールがラインであった場合のゴールコントロールゾーンについて、ゴールポイントへ最終パイロンから引いたラインに垂直となるラインと、ゴールポイントを中心とする決められた半径の後ろ半円となっている。しかしながら最終パイロンがビッグシリンダーとなった場合、ラインの向きが実際と合わなくなることを解消する提案。もっともな提案と思ったが、ビッグシリンダーを採用した場合の最適ルートの取り方がアルゴリズム

によってピンポイントの1点にならないことによる無視できない誤差が出ることで、否決された。当分の間、最終パイロンからゴールの間にパイロンをセットすることなどで対処する。

38T

大会中の無線で、混乱を防ぐために、選手からの発信では、「キャンセル」、「ストップ」なる文言を使用禁止とし（主催者のみで使用可能）、競技の状況確認に関して選手は、「タスクステータス」を使用する提案。この提案は承認された。

[D : PGXC関連]

25B

PGXC世界選手権でより公平性を担保するためにチームサイズを調節する提案。その中身は、チームサイズはn+1（同一性はnまで）とフィックスする（どの国もn+1以上の選手は参加できない）。チームスコアはタスクにおけるベスト2の合計とする。nの値は少なくとも1年前に決定し、2025年は3とする。この提案は総会前のPGXC委員会で議論が交わされたが、最終的に撤回された。

25E&F

ハイクアンドフライを新種目として認定し、競技ルール（S7L）を策定し、WPRSランキングも公表してゆく。また現存の作業部会を常設委員会に格上げして、さらなる発展に寄与する提案。この提案は承認された。常設委員会の委員長には作業部会を主導したフランスのトーマス・セナックが指名された。

25I

CCCグライダーに関する規定S7Gに、遅くとも大会スタートの114日前までにCIVLに認証取得資料を送付することとなっているのを、60日に短縮する提案。この提案は承認された。

25K

これはS7Aの2.1（エントリー）として「2025年1月以降、大会参加許容最大人数は130とする。この人数は例外的に、大会立候補時に増やすことが出来る。」となっているのを、カテ2大会ではこの最大人数は変更不可とする文言を追加する提案。この提案は承認された。

38A

マルチイベントに関するルールをS7に明記する提案。この提案は撤回

された。

38C

カテ2として、1大会が数か国の選手権といったものが開催され、本来カテ2ルールで保証された枠の25%を、それらの国以外の選手用として枠取りをしていない大会が散見されるので、これをやめさせる提案。その後、提案が修正され、大会が1か国の選手権では、海外枠を25%、2か国の選手権では20%、3か国以上の選手権では15%とすることになった。この提案は否決された。

38E

大会競技中、無線の無変調が出て、実際に、スタート前に墜落したパイロットの救助のためにヘリを呼んだが、無変調が出ていたため、ヘリが着陸するのでエリアを開けるように無線で指示したが不成功となった事例があった。またスタート前の高度獲得のために雲中飛行を防ぐための、制限高度を測定することも兼ねてダミーを飛ばせてこれを防ぐ提案。提案の形になっていないとして非決議となった。

38K

現在のPGXC世界選手権では、強豪国のトップ選手には非常に狭き門となっている。また強豪国では、世界チャンピオンがいたり、女子もWPRSランキング上位者は別枠で入れることもあり、そうでない国との参加選手数が大きく乖離するといったことが起き、公平性が担保できないので、世界選手権を、個人と団体とに別々なものとして4年ごとに開催するという提案。この提案は撤回された。

38L

WPRSポイントの計算で大会参加人数による係数(Pn)がある。これは、その大会参加者数を過去12か月のその種目の大会での平均で割った数値の平方根になる。また、最大値は1.2に制限されている。これだと、参加人数の少ない大会の価値が下がる傾向になるので、過去12か月の平均で割るのではなく、決まった数値(55)に固定する提案。この提案は承認された。

38N

PGXCカテ1大会への参加資格条件が厳しすぎて、女子の参加を著しく難しくしていることを是正するために緩和する提案は修正され、最終的な内容は次のとおり。

□世界選手権では、現行の「世界WPRS700位まで、あるいは、ひとつのFAI公認大会で40点を取ったことがある」を、「700位まで、30点」と緩和する。

□ヨーロッパ選手権では、現行の「ヨーロッパWPRS700位まで、あるいは、ひとつのFAI公認大会で40点を取ったことがある」を、「700位まで、30点」と緩和する。

この提案はスクリーニング委員会が女子選手の参加を考慮することで対処することとして撤回された。

38P

S7Aの3.3.2にタスクが有効となるテイクオフオープン時間の規定がある。現在、PGでは選手1人につき30秒となっているが、これは短すぎるので、1人につき1分として、それに10分(高度を稼いでスタートに間に合わせる時間)を足した時間とする提案。この提案は撤回された。

38Q

**リーグのように、年間数戦、戦って最後に年間ランキングを付けるもの(例えばJリーグ)に対して、最終ランキングにWPRSポイントを付与する方法を考案する作業部会を立ち上げる提案。この提案は承認された。

38R

現在あるジュニアカテゴリーにさらにサブカテゴリー(例えばU19とか)を設ける提案。この提案はWPRSランキングにある閾値(最低は19歳)を選択するとそれによるフィルターがかかったランキングが表示されるようにすることに修正されて、承認された。

38S

CIVLの全てのPG公認大会(カテ1およびカテ2)に参加できるパラグライダーを製造日から10年以内とする提案。この提案は否決された。

38X

カテ1大会と日程を同一(あるいはほぼ同一)とする大きなカテ2大会を開催することは、カテ1大会の開催される大陸にいる選手への不利益になるので、これを是正する(大会間に1週間空ける。そうでなければ当該カテ2大会に対してWPRSポイントを付与せず、その大会を主催したNACがその年度に主催する大会すべてに対してもWPRSポイントを付与しないこととする)提案。この提案は撤回された。

今後の選手権立候補

39D 2026年8月 北マケドニア、Krushevo。XCヨーロッパ選手権は承認された。

39E 2026年9月 アメリカ合衆国、Monroe。XCパンアメリカン選手権は承認された。

39F 2026年1~2月 メキシコ、Nayarit。XCパンアメリカン選手権は立候補資格なしで非採決。

39G 2026年6月 カザフスタン、Tekeli。XCアジア・オセアニア選手権は承認された。

39L 2026年 北マケドニア、Krushevo。XCジュニア世界選手権(2026年8月6~19日に同じ場所で開催されるXCヨーロッパ選手権と前後して開催予定)は承認された。

[E:PGA関連]

29A

S7Cの5.4.3.2で「ベスト**人のパイロット」となっているところを「ベスト**ランクのパイロット」とする(同点となった場合にどちらも先に進めるように)。また3.3.7(外部からの補助)として無線あるいは外部からの助けによりパイロットをターゲットに誘導することは禁止される。を追加する提案。この提案は承認された。

29B

S7Cに5.4.3.3(ノックアウト後のジュニアおよび女子ランキング)として、ラウンド6でノックアウトされた後、少なくとも上位6位にランクされた女子およびジュニアは、総合カテゴリーとして選抜されるかどうかに関係なく、大会が終了するまで競技を継続する。選抜されなかった女子およびジュニアは、それぞれのカテゴリーのランキングのみを競い、それぞれのカテゴリーのメダルを目指して戦う。女子およびジュニアは、それぞれのカテゴリーでの競技が出来るとしても、総合カテゴリーとして選抜されなかった場合、総合ランキングでの順位はそれまでのランキングで凍結される。WPRSランキングの対象となるのは総合ランキングである。を追加する提案。この提案は承認された。

29C

S7Cに5.4.4.1(ノックアウト後のチームランキング)として、6ラウンドでノックアウトされた後は、ランキング

上位6チームのみが大会終了まで競技を継続する。7ラウンド以降はチームメンバーは3人として、チームスコアはベスト2の合計とする。6ラウンド終了時点でランキング上位6チームの中に3人の選手が選抜されなかった場合は、個人のランキングは6ラウンドで凍結されることとして3人になるまで補充する事が出来る。7ラウンド以降選抜されなかったチームのランキングはその時点で凍結される。を追加する提案。この提案は承認された。

29D

これは、最近野球やサッカーで採用されている、ビデオ判定を導入できるようにする提案。内容としては、S7Cに5.4.3（その他の測定システム）として、主催者が適切な測定システム（ビデオなど）を提供した場合、チーフジャッジはそれを受け入れ、採点に使用することができる。この測定システムはAMD（自動測定装置、つまりパッド）の代わりにはならない。チーフジャッジは、この測定システムを制御するビデオ測定ジャッジを任命しなければならない。の文言を追加し、現存の5.4.3項以下を、再ナンバリングする。この提案は承認された。

29E

現在コンプレインならびにプロテストを入れるまでの時間が2時間と長すぎて、待ち時間が無駄であることを解消する提案。現在のS7C、7.2（コンプレイン）にプロビジョナル結果の公表から2時間となっているところを、プロビジョナル結果の公表から決められた時間内に提出されなければならないと変更し、7.2.1（オンライン結果でのコンプレイン申し立て時間）として結果をオンラインで公表する場合は、タイムリミットは結果公表から15分とする。パイロットまたはチームのリーダーがコンプレインを提出する場合は、この時間内に大会委員長またはチーフジャッジに通知するものとする。大会委員長は、コンプレインを提出しなければならない時間を設定することが出来る。を追加し、7.2.2（オンラインでない場合のコンプレインの申し立て時間）として、現行の、2時間を1時間に変えて記述する。また、7.3（プロテスト）にタイムリミットが2時間となっているところを1時間に変更する。という提案。この提案は承認された。

38A

マルチイベントに関するルールをS7に明記する提案。この提案は撤回された。

38AA

カテ1大会においては、チームに重きを置いて、ノックアウトシステムを採用する場合は、最初の6ラウンド終了時点で、昨年のように60名の選手を選抜するのではなく、チームサイズが4人の場合は15チーム、チームサイズが7人の場合は8チームを選抜し、その後の選抜もチームの選抜とするアイデア。一方、カテ2でノックアウトシステムを採用する場合は、昨年のように選手を選抜する。という提案。この提案は否決された。

38F

アキュラシー大会で、テイクオフ順をWPRS順とする提案（趣旨は、同レベルの選手がほぼ同じ時刻に飛ぶため、同一条件での勝負になる）は修正され、現行のS7Cの3.2.2.1（フライト順の割り当て）の文言を3.2.2.1.1（カテ1）とし、新たに3.2.2.1.2（カテ2）として、パイロットは決められた順序でテイクオフする。登録時にチームリーダーがチームメンバーを決定する。パイロットには、WPRSランキングに基づいて飛行順番号が割り当てられる。WPRSランキングが最も低いパイロットがそのラウンドの最初にテイクオフする。同順位の場合はアルファベット順とする。トップ10のパイロットはそのラウンドで最後に飛び、くじ引き順とする。を追加する提案となり承認された。

38G

数年前、カテゴリーとしてジュニアを新設したが、同様にマスター（内容はシニア）を新設しようという提案。（年齢制限の案として、50歳、55歳などが上がっている）この提案は否決された。

38I

カテ1大会に参加するに際し、参加資格がないのに例外規定を利用して参加できる道があるが、これを削除する提案。この提案は否決された。

38L

WPRSポイントの計算で大会参加者による係数（Pn）がある。これは、その大会参加者数を過去12か月のその種目の大会の平均で割った数値の平方根になる。また、最大値は1.2に制限され

ている。これだと、参加人数の少ない大会の価値が下がる傾向になるので、過去12か月の平均で割るのではなく、あるきまった数値（種目により異なるも可）に固定する提案。この提案は承認された。

38R

現在あるジュニアカテゴリーにさらにサブカテゴリー（例えばU19とか）を設ける提案。この提案はWPRSランキングにある閾値（最低は19歳）を選択するとそれによるフィルターがかかったランキングが表示されるようにすることに修正されて承認された。

38S

CIVLの全てのPG公認大会（カテ1およびカテ2）に参加できるパラグライダーを製造日から10年以内とする提案。この提案は否決された。

38U

S7C（アキュラシー）の5.4.3.2（ノックアウト）に関して、6、8、10ラウンド終了後に、選手を上位からそれぞれのラウンドで60、40、20人をセレクトすることになっているが、カテ2大会では、ローカルルールでセレクトされる人数を自由に決めることが可能となっている。では、ノックアウトするラウンドを変更する、あるいはノックアウトする回数を変更するなどは可能なのかどうか。また、ノックアウトされた選手は、競技を継続できないが、その場合記録（世界あるいは大陸）の挑戦はどうなるのかなどの疑問を、最終ノックアウトでのセレクト選手数を、20人から30人とする提案で、表明している。この提案は撤回された。

38V

全てのアキュラシー大会での最高フライト本数を12本とする提案。この提案は撤回された。

38W

アキュラシーカテ1大会の価値を上げるため、新しい大会の構成の提案（だがよく理解できない）。この提案は撤回された。

今後の選手権立候補

39J 2026年2月14～22日 タイ、PHA TAK SUEAでのアジア選手権は承認された。

【次回総会】

2025年3月6～9日 モンテネグロ、Budva

リーグ頂点に立ったパイロットから

〈続〉2023年の競技を振り返って

パラグライディング (PG) とハンググライディング (HG) の両競技委員会が運営するJHF競技リーグは、1月1日から12月31日までをシーズンとして、年間ランキングを決定しています。

5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行した2023年シーズンは、フライトエリアに活気が戻り、多くのパイロットがその技術と知識、経験を活かして「より遠くへ、より速く、より長く」を競い、それぞれの目標達成に向けて挑戦しました。今回は、前号の編集集中に順位が確定していなかった各リーグについて報告します。

PGクロスカントリーリーグ

[フリーディスタンス]

- 1位 中川 喜昭 最長4/1-116.6km +104.6+92.8+84.2km 計398.18km
 - 2位 佐々木伸二 最長4/9-101.3km +85.3+77.1+69.5km 計333.09km
 - 3位 阿知波広和 最長4/1-131.1km +70.3+62.8+61.3km 計325.55km
 - 4位 山崎 勉 最長5/12-101.1km +78.1+67.7+66.7km 計313.57km
 - 5位 中村 哲也 最長5/4-94.9km +83.4+54.3+51.9km 計284.44km
 - 6位 熊谷 勝秀 最長4/1-93.1km +77.0+57.4+40.1km 計267.55km
- 最長飛行 阿知波広和 4/1-131.1km
岐阜県ニッ森→長野県佐久平



1位
中川 喜昭

3年ぶりに1位となり、とても嬉しいです。2023年シーズンは足尾からのXCは良い日が少なく、また距離も伸びず、私の100km超えは一回のみでした。

一方、新たなチャレンジとして参加した中央アルプス越えのXCでは良いコンディションに恵まれました。中央アルプスを越え、さらに八ヶ岳も越えて佐久まで飛べました。これまで経験を重ねてきた先駆者の皆さんに感謝します。いつもとは異なる環境に置かれ、緊張と大きな感動を伴ったフライトで

した。これが私の2023年における最長距離となり、XCリーグ1位につながる重要な一日だったと思います。

クロスカントリーとJリーグは今後も続けます。皆さま今年もどうぞよろしくお願いします。



最長飛行
阿知波 広和

2日前に中央アルプスが飛べそうだと誘われ、予報(予想サーマルトップ14,000ft)を確認して即決。急遽仲間を集めた4月1日のニッ森エリアからのフライトでした。

テイクオフ直後の10分で1,500mゲイン、逆方向のベストポジションを取りスタートしました。中央アルプスの稜線から伊那谷を渡り入笠山で本日の最高高度4,550mを記録。更に谷を渡り絶景の八ヶ岳連峰上空でセールプレーンと遭遇し、一緒にセンタリングした後、北上し佐久平駅付近までの131km。

各地のXCが発達したこともあり、短めの最長距離のタイトル獲得は、本当にラッキーでした。

今シーズンも無理せず楽しんで飛ばそうと思います。

HGフライトコンテスト

[ストレートディスタンス クラス1]

- 1位 田中 元気 4/9 184.18km
- 2位 小高 史郎 3/9 181.62km
- 3位 名草 慧 4/9 177.64km

[ストレートディスタンス クラス5]

- 1位 板垣 直樹 4/25 175.06km
- 2位 岡田 伸弘 4/4 122.81km
- 3位 富原 淳 10/24 115.78km

[アウトアンドリターン クラス1]

- 1位 馬場 峻司 4/23 98.41km
- 2位 鳥羽 岳太 4/23 84.68km
- 3位 大野 洋 4/22 64.43km

[アウトアンドリターン クラス5]

- 1位 松田 隆行 4/23 130.45km
- 2位 古坂 学俊 3/4 111.45km
- 3位 宍戸 俊之 3/11 94.61km

[トライアングル クラス1]

- 1位 石坂 繁人 3/14 80.8km

- 2位 大山 真哉 5/27 58.14km
 - 3位 服部 良亮 5/21 56.03km
- [トライアングル クラス5]

- 1位 松田 隆行 4/23 127.12km
- 2位 山口 裕之 3/4 98.46km
- 3位 山本 剛 7/2 86.25km

[デュレーション]

- 1位 松田 隆行 4/29 11:12:04
- 2位 児玉 智雅 6/4 10:00:42
- 3位 那須 健太 7/16 9:06:24



ストレートディスタンス
クラス1 1位
田中 元気

2023年ストレートディスタンス部門で1位になったことを非常に嬉しく思います! 昨年の大佐山は天気が出が少なく、この一回きりのクロカンでした。大佐山を離れた高度も約1800mとあまり高くなく、前半は集団で助け合いながらのフライトでした。津山盆地の北側の山並みにコースを取り那岐山へ。山並みで上げて谷を超えての繰り返しで順調に進みましたが、篠山盆地は田んぼに水が入っている所が多くあり、降りる所を気にしながら平地に出たところで対地約500mからリフトにヒット。京都の町並みを観たい!とサーマルを探しますが、残念ながらここまで。

琵琶湖越えはまたのチャンスを期待して、これからも飛んでいきます。5時間40分のフライトで184kmでした。



ストレートディスタンス
クラス5 1位
板垣 直樹

昨年は平日に3回飛んで130km・140km・175kmと運と条件に恵まれた。

クロスカントリーでは楽しく安全が第一だが、普段飛ばない所を飛び、初めての所に降りるので当然リスクも高い。175km飛び、福島市の休耕田に降りた時は北東風が7~9m吹いていた。着陸地点は余裕を持って決めていたので問題なかったが、降りた後は強風と格闘し機体を安全な場所に置きハーネスを脱ぐまでに10分以上かかった。

クロスカントリーは毎回、新しい発見があり素晴らしい経験が待っているが、どんな状況でも一人で対処しなければならないと改めて感じた。

回収手配や待つのが嫌で殆どフリーディスタンスはしてこなかったが、良い仲間達に恵まれた事に感謝したい。

フライトコンテストと言ってもそれぞれ違う日、違う条件で飛んでいるのでホントは比べるべきではないのかもしれないが、一番になれ、楽しく飛べ素晴らしい経験が出来た事が嬉しい。



**アウトアンドリターン
クラス1 1位
馬場 峻司**

とんでけ大会でちょっと趣旨は違うけれど成績を残せたこと、大会のスタッフの皆様のおかげだと思っています。改めてありがとうございます。

私にとって今回の入賞は初めての経験で、うれしい限りです。

行きは条件を上手く活用できて調子が良かったのですが、帰りはサーマルが弱まり、正直厳しい状況でした。ランディングが見えてきた時の達成感、大きかったことを覚えています。

100kmの目標には届かなかったのですが、次回こそは達成できるよう、引き続き頑張っていこうと思います。



**アウトアンドリターン/
トライアングル
クラス5 1位
松田 隆行**

この日はとにかく運が良かった。日光ブロック、コンバージェンスコン

ディションの好条件で、初めて八郷盆地の外へのアウトアンドリターンフライトに挑戦し、初成功を収める事が出来ました。計画は足尾から宇都宮管制圏を時計回りに周り帰還するもので、このルートを選択した理由は、ストレートディスタンスの大きな記録を狙えるコンディションではなかったのと、夕方強めの北風が予報されており、その風を利用して帰還するためでした。

2023年度はフライトコンテストに全振りし、専属の回収者も用意していたので、1位になれてとても嬉しいです。日光市まで行く計画ではなかったのですが、良い積雲が日光市手前にあったため急遽予定を変更し、日光へ。正直、ここからの帰還は期待していませんでしたが、回収者の負担を考え、楽な気持ちで挑戦した結果、意外なことに帰還することができました。実は、トライアングルの記録は全く意識しておらず、アウトアンドリターンがちょっと大回りになったため、たまたま記録出来たというのが実情で、フライト後に先輩から教えて頂きました(笑)。



**トライアングル
クラス1 1位
石坂 繁人**

見てもあんまり面白くないけど、やると面白い、それが三角形フライトです。まず、1 辺目を作る時点で「どんな 2 辺目を作るのか」を意識しておく必要があります。次に 2 辺目を作る際、正三角形に近いもの(1 辺が総飛行距離の 28%以下でないこと)を作るこ

とを意識します。2 辺目を作り終えたら、あとはスタート地点まで帰ればゴールなのですが、実はその後でも上記の「28%ルール」さえ満たされれば、2 辺目から離れる方向に記録を伸ばすことができます。

正直…マニアックすぎて意味不明ですよ？ まずは試しに、総距離15kmくらいでトライしてみてください。やってみると、その意味と面白さが分かってくると思います！



**デュレーション
クラス1&5 1位
松田 隆行**

2023年度は特にデュレーション記録を狙っていたので1位になれて本当に嬉しいです。2018年にGeckoで3位になってから、いつかは1位になりたいと思っていました。あれから経験も積み、機体もより高性能になったため、1位を狙うことは私にとっては夢ではなく、むしろ現実的な目標になっていました。

今回チャンスにも恵まれ、この日は板敷エリアでは鉄板の変態活動日。一日中南風強風予報でした。少し風が強すぎるかと思いましたが飛べる可能性はあると考えて山へ。結局この日、板敷エリアで飛んだのは私一人でしたが、この事も記録を出す上で有利に働きました。もし、誰かにデュレーション記録を出す上で何が一番重要か？と聞かれた場合、私はこう答えます。『早朝にサポートしてくれる仲間がいる事』だと。ダニエルさんありがとう。

● 2023年パラグライディングXCリーグを振り返って ●

パラグライディング競技委員長 岡 芳樹

2023年度は48名のパイロットが4本の合計が10km以上となり、ランキングされた。10kmを超えるフライト本数は647本であった。ランキングに計上されたフライトではダントツで足

が多く、ニッ森、猪之頭、大佐と続く。100kmを超えるフライトは6本で、エリアは足尾、ニッ森、大佐の3か所でそれぞれ2本ずつ。50kmを超えるフライトは52本で、これもダントツで足

尾が半分を占め、ニッ森、大佐、北房と続く。クロカンのしやすさから足尾がメッカとなっているが、中部地方ではニッ森、関西では大佐・北房も台頭してきていて楽しみだ。

● 2023年ハンググライディングフライトコンテストを振り返って ●

ハンググライディング競技委員長 牟田園 明

2023年のフライトコンテストは全4部門のうち3部門で1位を獲得した足尾エリアの松田隆行の一人勝ちであった。アウト&リターンとトライアングルで同時に1位を記録したフライトでは、足尾から西回りで宇都宮管制圏を迂回し、65km離れた今市でリターン、日光コンバージェンスによる弱風

域を上手に使うって高根沢を経由して足尾に帰還した。上限高度が1,800mに限られるなか、何度も500mを切りながらローセーブで耐えたフライトは十二分に賞賛に値する。八郷で飛ぶフライヤーなら一度はこんなフライトを試みたいと夢見るそんな1本であった(ちょっと褒めすぎ?)。

続いてデュレーション部門では、板敷山から11時間12分の新記録を達成。テイクオフは6時57分、ランディングは18時9分。この記録が今後破られるのか、楽しみである。

チャレンジャーの方々には、十分に安全に留意した上でフライトされることを注意書きとして付記する。



オークハンググライダースクール所属。社会に出て2年目を迎えたばかりの会社員。

■ホームエリアの特徴や魅力などを教えてください。

ホームエリアは鳥取県にある霊石山です。高度300m程度なので他エリアと比べるとそこまで高くありません。テイクオフは地形の関係で少クセがありますが、おかげで他エリアのテイクオフではあまり苦労せずに済みました。リッジソアリングできる空域はあまり広くありませんが、初めてのソアリングの練習には非常に適したエリアだったと思います。

また、ハングエリアとしての鳥取の一番の魅力は鳥取砂丘があることだと思います。私も初飛びまでは砂丘で練習をしていました。夏には全国の初飛び前の学生フライヤーが鳥取砂丘に集まってみんなで練習を行います。初飛び前に他エリアの学生と関わる機会は多くないため非常に楽しかった思い出があります。

■ハンググライダーを始めたきっかけは何ですか？

ハンググライダーを始めたきっかけは大学の新人歓迎会です。せっかく大学生になったからには今までやったことのない事をしたいと思っていたところ、鳥取大学にハンググライダー部があることを知り即体験に行き、入部を決めました。



広い鳥取砂丘に学生が集まってみんなで練習した。

油座菜々子

旋回しながら高度を上げて飛んでいるときは

大学1年生でハングに出会い、そこから7年経った社会人2年目の現在も在学中と大きく変わらない頻度で飛びに行くことができます。こんなに長く続けられる趣味に出会えて本当に良かったと思います。

■ハンググライダーをやってよかったことってありますか？

空を飛べるのはもちろん、週末にフライヤー仲間と一緒に飛んだりツアーに参加できることが楽しいです。

私は昨年大学を卒業し、現在社会人2年目です。在学中とは違い毎日友人に会うことができなくなったことで、同じ趣味を持つ仲間と定期的に会って一緒に飛べるのは貴重なことだと一層感じるようになりました。また、私はハング以外で外に出る趣味がないので、飛びに行くことで有意義な休日を過ごせたなど自己満足できるのも、ハングをやっていて良かったことの一つかもしれません。

フライト面に関して言うと、やはり非日常を感じることができるのが良いです。たまに良いフライト（高高度を獲得したり、行ったことのない場所に行けたり）ができた時は、やっていて良かった、また飛びたいと感じます。

■ハンググライダーの一番の魅力は何ですか？

魅力はたくさんありますが、やはりサーマルソアリングで高高度を獲得できた時が一番楽しいです。

リッジソアリングも良いですが、やはりサーマルで旋回しながら高度を上げている時は「空を飛んでる！自分で上昇している！」という感覚を得られるので、私はサーマルが好きです。

非日常を味わうためにハンググライ



もっと考えて飛び、技術の向上を目指したい。

ダーを始めましたが、飛ぶことが当たり前になるとただ飛ぶだけでは感動が薄れてしまうタイミングもあります。

しかし、たまに良い条件の日にあたって、ひと上げで何百mも高度を獲得できたときには、やっぱりハングはやめられないと感じます。1000m以上の高度を獲得したこと自体がまだ少ないので、今後はよりソアリング技術を磨いて沢山のサーマルに乗りたいです。

■これからの目標は何ですか？

今までは漫然と飛んでしまっていたのですが、これからは考えて飛び、技術の向上を目指したいと思います。そしてゆくゆくはXC証をもらってオープンクラスの大会にも出てみたいです。

学生時代はコロナにより、在学6年のうち合計で3年程度しか大会が開催されませんでした。参加した大会も条件が良いものばかりではなく、あまり他の人とレースしたりといった経験をする事ができませんでした。

バリバリ大会に参加し、結果も残しているハング同期の話や聞くのがすごく楽しそうなので、私もいつかそんな体験をしてみたいと思います。

アンケートにご協力ください

“Flyer's Voice”はJHFウェブサイトで紹介しているフライヤーの生の声です。今号からJHFレポートでも全文を掲載していきますので、お楽しみに。もちろんウェブサイトでの掲載も続きます（バックナンバーもご覧になれます）。

今後も全国のフライヤーの声を紹介していくにあたり、皆さんにお願いです。【“Flyer's Voice”に取り上げてほしい人（自薦他薦問わず）を教えてください】【JHFレポートに掲載してほしい記事は？】等、アンケートにぜひご協力ください。ご回答は下のQRコードからお願いします。



JHF総合保障制度 2024年度募集スタート

JHF総合保障制度とは

任意でご加入いただくライダーのための傷害保険です（お怪我が対象となります）。

■パラグライダー（含むモーターパラグライダー）搭乗中のお怪我、お仕事や日常生活のお怪我および遭難の際にかかった捜索費用等の補償をいたします。

■地震、噴火またはこれらによる津波でのお怪我についても補償対象となります（この場合は救済者費用等保険金につきましては補償の対象となりません）。

■国内・国外どちらも対象です。

■団体割引5%が適用されますので、保険料が割安です。

●ご注意●

ライダー登録をすると第三者賠償責任保険が自動付帯されますが、第三者賠償責任保険はご自身のお怪我は補償されません。本保障制度はあくまでも任意でご加入いただく必要がございます。

※ご加入にはライダー登録が有効である必要がありますので、必ずライダー登録の有効期限をご確認ください。

◆第三者賠償責任保険とは

ライダー登録時点で自動付帯される保険です。ライダーが、フライト中に第三者に与えた物的・人的被害について法的範囲内で補償することを目的としています（モーターハンググラ

イダーは補償対象外です）。

万一事故が起きた際は、まずはJHF事務局へご連絡ください。JHFが休業の場合は、下記の『東京海上日動安心110番』にご連絡ください。

TEL.0120-720-110

◆2024年度募集がスタートします

今年度で20年目を迎える本保障制度は、2024年3月1日現在、800名を超える会員の皆様にご加入いただいております。

引き続き安全なフライトをお心がけいただき、事故なくお怪我なくフライトを楽しんでいただくことが大切ですが、万が一の時のための支えとして、本保障制度をご利用いただけますようお願い申し上げます。

◆現在ご加入の皆様へ

更新のご案内を4月上旬に取扱代理店より郵送させていただきました。大切なお知らせですので、書類到着後に必ず内容をご確認いただき、必要な場合は以下お手続きをお願いいたします。

プラン・住所等に変更なし
自動継続のため、お手続き不要です。

プラン・住所等に変更あり
5月24日（金）までに右のQRコードよりインターネットでお手続きください。

口座変更

WEB手続きをご案内いたしますので、代理店宛にご連絡ください。

解約

代理店宛にご連絡ください。

◆新規ご加入の皆様へ

7月1日新規加入をご希望される場合は、日本ハング・パラグライディング連盟のHPに掲載しております『JHF総合保障制度のご案内』をよくお読みいただき、P6～P8の手順をご参考に下のQRコードよりお手続きください。



インターネット募集期間：

4月1日（月）～5月24日（金）

※期日を過ぎますと、お手続きができませんので、必ず期日内にお手続きください。

【保険に関するお問合せ先】

〈取扱代理店〉

（株）東京海上日動パートナーズTOKIO
池袋支店 池袋支社

〒170-6030

東京都豊島区東池袋3-1-1

サンシャイン60ビル30階

TEL.03-6907-4622

（平日9:00～17:00 土日祝除く）

FAX.03-6907-4623

Email : info.ikebukuro@tnpgrp.jp

〈引受保険会社〉

東京海上日動火災保険（株）

航空宇宙・旅行産業部 航空営業課

〒100-8107

東京都千代田区大手町1-5-1

大手町ファーストスクエアWEST 9階

TEL.03-3285-1726

写真で空の仲間を増やそう！ 第11回JHFフォトコン開催

2024年度もJHFハングライダー・パラグライダーフォトコンテストを開催します。このフォトコンは、ハングライダーやパラグライダーの写真ができるだけ多くの人々の目に触れることにより、このスポーツの認知度が上がり、より一層の普及のために役立つと考え、2010年から開催しており、今年で第11回となります。

ハングライディング・パラグライディングの醍醐味や楽しさ、美しさを伝えられる写真、また、ハングライダー・パラグライダーを中心とし、一般の人の目を引きつける写真を募集します。お気軽にご応募ください。データでも応募可能です。

募集要項等はJHFウェブサイトのトップページで後日お知らせします。応募

締切日は2024年9月10日（火）です。

なお、今回も入選作品ならびに季節感のある優れた応募作品を採用して、2025年JHFカレンダーを作る予定です。これから撮影するものはもちろん、これまで撮りためてきた写真でも結構です。あなたが切り取った「瞬間」をぜひ見せてください。担当者一同、楽しみにお待ちしております。

JHFからのお知らせ／お願い

■JHF会費のd払いができます

JHF会費のウォレット請求書払いで利用可能な決済アプリ（LINEPay、auPAY、PayB）に追加して、2023年7月からd払いが可能になりました。

ウォレット請求書払いとは、払込票に記載されたバーコードを、ウォレットサービスのスマートフォンアプリで読み取ることでお支払いを可能にするものです。

会員登録更新案内の払込票に記載されたバーコードを読み取って決済してください。決済が完了しましたら、事務局でデータ確認ができ次第、ご登録の住所宛に会員証をお送りします。

決済から1週間が過ぎてもお手元に会員証が届かない場合は、お手数をおかけしますが、JHF事務局までお問い合わせください。

■1年会費のみになりました

2023年6月13日のJHF定時総会において、JHF会員会費規約の改正が承認されました（47正会員の全員一致の賛成による）。

これまでJHFフライヤー会員会費は1年会費または3年会費でしたが、2024年1月1日より1年会費のみになりました。これによって、事務局業務の効率化も図っていきます。

■エリア情報を集めています

ドローン実用化に伴いハンググライダー、パラグライダーのエリアの正確な把握が必須になっています。

エリア管理を担当されている皆様、エリア名、テイクオフ、ランディング所在地、GPSコード情報をお知らせください。現在把握している情報はJHFウェブサイトに掲載しています（左下のQRコード）。ウェブフォームからの入力もできますので右下のQRコードからご覧ください。



会員の皆様からの、ご存知のエリアが掲載されていない等の情報もお待ちしています。ご協力をお願いします。

■JHFインスタ：ショート映像募集

JHF公式Instagramを始めました。広報活動のひとつとして、パラグライダー、ハンググライダーを知らない方に興味を持ってもらえるような、気持ちよさそう！飛んでみたい！というショート映像を紹介していきます。つきましては、会員の皆さまにも、楽しさが伝わる映像のご提供をお願いします。

ハンググライダーまたはパラグライダーでのテイクオフ、フライト、旋回、ランディング等をしている15秒～60秒程度の動画をお願いします。あなたや

お仲間の動画をぜひ！ただし一般の人が見て危険に感じるようなものはNGです。詳細はJHFウェブサイトをご覧ください。



■お名前・ご住所が変わったら 早めにお知らせください

発行のたびに宛先不明で戻ってくるJHFレポートが少なくありません。

JHFレポートには、フライヤー会員の皆さまにぜひ読んでいただきたい情報を掲載しています。氏名や住所に変更があったら、お手数ですが早めにメールかFAXで事務局にお知らせください。

[お知らせいただきたいこと]

- ・フライヤー会員番号
- ・お名前（氏名変更の場合は新旧名）
- ・新しいご住所
- ・連絡先電話番号
- ・メールアドレス

もしフライトのお仲間に転居された方や、お名前が変わった方がいたら「JHFに変更の連絡をした？」と声をかけてくださるとたいへん助かります。

■各種申し込みやお知らせ

お問い合わせはJHF事務局へ

公益社団法人

日本ハング・パラグライディング連盟

〒114-0015 東京都北区中里1-1-1-301

TEL.03-5834-2889 FAX.03-5834-2089

E-mail:info@jhf.hangpara.or.jp

https://jhf.hangpara.or.jp

事務局業務の効率化のため、ご連絡はできるだけメールでお願いします。回答が通常より遅れることがありますが、順次対応をいたしますのでご理解ください。

*このJHFレポートには、賛助会員からのお知らせを、神奈川県在住の方には県連盟からのお知らせも同封しています。

上空利用可能デジタル無線機使用のお薦め

2024年（令和6年）11月30日にアナログ式簡易無線機の運用が終了することに備えて、JHFではハンググライダーやパラグライダーのフライト中に使用する無線機として「簡易無線登録局」対応のデジタル無線機の使用を推奨しています。

上空利用5チャンネルを搭載、デジタル方式の音声なので、混信もすくなくクリアで聞き取りやすくなっています。現在の対応機種はSTANDARD製のVX-291S、VXD450S、VXD1S、ICOM製のIC-DPR30、IC-DPR4、KENWOOD製のTPZ-D510です。

JHF賛助会員（JHFウェブサイト）にバナーを掲載）からも購入するこ

とができます。

なお、JHFではSTANDARD製デジタル無線機を15台保有し、フライヤー会員に貸し出しをしています。ご希望の方はJHFウェブサイト「JHFのご案内」をご覧ください。

すでにデジタル無線機をお持ちの方は、無線機の登録手続きを済ませ利用料を納めているか、ご確認ください。登録をしないまま無線機を使用すると、不法無線局として処罰の対象になります（1年以下の懲役または100万円以下の罰金）。お忘れのないようお願いします。

JHFレポート245号

発行日：2024年（令和6年）4月30日

発行：公益社団法人 日本ハング・パラグライディング連盟（JHF）

編集：JHF事務局

印刷：株式会社アイセレクト

本レポートの一部あるいは全部を無断で複写複製することはご遠慮ください。